# 私たちの役目とは

前橋市立第六中学校　三年　関　麗奈

今年は夏の暑さを忘れてしまうほど、例年よりも梅雨明けが遅くなりました。私の住んでいる地域でも毎日のように雨が降り、日によっては雷を伴う激しい雨が降ることもありました。

そんな日々の中、私はある衝撃的なニュースを目にしました。崩れて地表があらわになった山。多くの木々や岩を流した土砂。土砂が周囲に広がる住宅地。土砂災害です。近隣の住民は、「ゴゴゴッと大きな音がして怖かった。身の危険を感じた。」と話しました。私はこれを聞いて、自分に置き換えて想像してみました。もし、激しい雨が降り注ぐ中、巨大な音とともに土砂が流れ込んできたら。想像しただけでも冷や汗が流れました。

また、このニュースを見た母が、「そういえば、お母さんの実家の裏山の斜面はコンクリートで固められているんだよ。近くで土砂崩れが起きて、市で一帯を施工してくれたの。」私は衝撃を受けました。昔よく遊びに行っていた裏山でも土砂災害が起きていたなんて。正直、土砂災害について、自分がもっていた甘い考えに恥ずかしさを感じました。また、土砂災害に来事を通して、自分がなかった自分にショックを受けました。考えてみれば、もし自分が住んで対して全く知識がなかった自分にショックを受けました。考えてみれば、もし自分が住んでいる地域で土砂災害が発生したら、どう自分の身を守ればよいか分かりません。危機感を感じた私は、これを機に、一度土砂災害について調べることにしました。

調べていくと、様々なことがわかりました。土砂災害による実際の被害や、災害後の復旧作業、被災者の方の心境。どれも私の胸に深く刺さりました。中でも驚いたのが土砂災害の発生件数です。今年の七月三日から七月三十一日までの期間を「令和二年七月豪雨」といい、その期間で土砂災害が発生した件数は、なんと九百二十九件にものぼるそうです。集中豪雨の期間ではありますが、自分が普段通りの生活を送っていた間に、これだけの土砂災害が発生していたことに驚愕しました。そして、土砂災害は自分のごく身近でもおこりうるものなのだと思い知らされました。

では、そんないつ起きてもおかしくない土砂災害から自分の身を守るにはどうすればよいのでしょうか。調べたことを参考にしながら、自分なりに考えてみました。

一つ目としては、土砂災害ハザードマップを活用することです。これを見ると、土砂災害危険区域や土砂災害危険箇所、避難経路を把握することができます。事前に場所を把握しておくことで、集中豪雨などに見舞われて、もしものことがあった時でも、すぐに安全なルートを通って避難することができると思います。

二つ目は、近くで土砂災害が起こった場合、どのように行動するかを事前に家族で話し合っておくことです。災害は、いつどんな状況で起こるかわかりません。もしかしたら、家族がバラバラの状態で土砂災害が起きるかもしれません。その時、どの避難場所に避難するか事前に決めておけば安心できます。

三つ目は、土砂災害に対して危機感をもつことです。今までの私のように、土砂災害を人事のようにとらえてしまっていては、避難する時間や知識があったとしても、行動に移せず自分の身を守ることはできません。様々な場所で土砂災害は起こっているため、自分のところは平気だと思い込まずに、早めの避難をすることが大切だと思います。

これをきっかけに、私は土砂災害についての知識を深めることができました。もし、土砂災害に関して無知のまま、もしものときをむかえていたら。そう考えるとぞっとします。そして、調べていく中で気付いたことがあります。それは、様々なところで土砂災害に対する対策がとられているということです。母が言っていたように、土砂災害が実際に起こった地域や、起こる危険のある地域では、施工が行われていたりします。また、土砂災害ハザードマップが配布されていたり、土砂災害が発生する危険のある場合は、土砂災害警戒情報が発表されたりしています。私たちは、これらの対策に感謝をして、それを最大限に活用するべきだと思います。現代では、インターネットが普及し、手軽に情報を手に入れることが可能となりました。自分で積極的に情報収集をして自分の身を守る、これも、土砂災害から身を守る行動としてとても重要なことだと思います。もっと一人一人が、土砂災害に対する知識を深め、被害を最小限に抑えることが、自然災害の多い日本に住む、私たちの役目だと思います。